

『2015 年上半期（1月～6月）JVA統計調査』について

当協会は9月14日(月)午後3時より、協会会議室において『2015 年上半期（1月～6月）JVA統計調査結果』について記者発表会を開催しました。

以下に記者発表された報告の中から抜粋して2015 年上半期の統計調査結果についてご報告いたします。

なお、同調査の詳細な結果は『日本映像ソフト協会統計調査報告書 Vol.80』として冊子にまとめられ、一般の方にも有料にて頒布しております。

詳細については、広報課上田または倉橋まで(03-3542-4433)、もしくは協会ホームページ「お問い合わせ」にアクセスしてください。

以上

2015 年上半期統計調査の結果について

1. 今期のビデオソフトの総売上金額は1019億5700万円で前年同期比97.4%となった。

そのうち、DVDビデオの売上金額は599億5400万円で前年同期比90.2%と割り込んだが、ブルーレイは420億300万円で同109.9%と伸長した。ブルーレイは好調に推移したもののDVDビデオの減少が売上全体に影響した結果となった。これにより売上金額に占めるブルーレイの割合は前年同期の36.5%から41.2%に拡大した。

2. ビデオソフト全体（DVDビデオとブルーレイの合計）の売上金額を販売用、レンタル店用、業務用の流通チャネル別にみると、販売用が756億7700万円で前年同期比101.3%と伸長した一方で、レンタル店用が256億6200万円で同86.9%と割り込んだ。業務用は6億1800万円で同124.8%だった。それぞれの割合は74.2対25.2対0.6となった。

3. 販売用全体（DVDビデオとブルーレイの合計）に占めるブルーレイの割合が53.0%となり、前期に引き続き、過半を占めることとなった。

ブルーレイの販売用売上金額は、400億7400万円で前年同期比111.8%と二桁の伸長となった。一方のDVDビデオの販売用は356億300万円で同91.7%となり、減少傾向が続いている。

また、販売用全体の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比1位は『音楽（邦楽）』で構成比35.6%を占め、前年同期比133.9%と大きく伸長し盛り返してきている。2位（構成比29.5%）の『日本のアニメーション（一般向け）』は同84.5%、3位（同8.2%）の『洋画』も同97.0%とわずかながら前年同期を割り込み、両ジャンルとも前年同期割れが続いている。一方、4位（同5.7%）の『邦画』は同113.0%と大きく伸長し、こちらは前期に続いて2期連続で前年同期を上回っている。

各ジャンルの売上金額におけるブルーレイの割合は、『日本のアニメーション（一般向け）』が前年同期の76.6%から79.9%に、『洋画』も49.3%→56.6%と過半を占めブルーレイが主流となってきている。また『邦画』も38.8%→44.9%とほぼ半分を占めた。『音楽（邦楽）』は32.5%→39.7%と過半はまだDVDビデオが占めているがブルーレイの拡大傾向が継続している。

4. DVDビデオの販売用の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比1位は『音楽（邦楽）』が占め（45.6%）、前年同期比119.7%と大きく伸長した。一方、第2位（12.6%）の『日本のアニメーション（一般向け）』は同72.6%で大きく前年同期を下回った。第3位（7.6%）の『洋画』も同83.0%と奮わなかったが、第4位（6.7%）の『邦画』は101.8%と前年並みとなった。

5. ブルーレイの販売用の売上金額をジャンル別に見てみると、『日本のアニメーション（一般向け）』が全体の44.6%を占め構成比1位となったが、前年同期比は88.1%と割り込んだ。このジャンルはDVDビデオも前年同期割れしており、リリースタイトルの強弱によるところが大きいとみられる。一方で、構成比2位（26.7%）の『音楽（邦楽）』は前年同期比163.4%と大きく伸長、ブルーレイのニーズが高まっている様子うかがえる。これに続く『洋画』（構成比8.8%）も同111.5%と伸長しており、DVDビデオの同ジャンルが前年同期比83.0%と減少したのと対照的となった。『邦画』（構成比4.9%）も同130.8%、『海外のアニメーション（一般向け）』（構成比4.7%）も同371.3%となるなど、好調なジャンルが目立った。

6. レンタル店用全体の総売上金額に占めるDVDビデオとブルーレイの構成比は、93.0対7.0で、相変わらず圧倒的にDVDビデオが占めている。DVDビデオのレンタル店用売上金額は238億6500万円で前年同期比87.7%で減少傾向が続いているが、今期は数量においては前年同期比106.1%と伸長している。

7. DVDビデオのレンタル店用の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比1位（19.6%）の『洋画』が前年同期比92.2%、2位（17.6%）の『日本のアニメーション（一般向け）』が同68.3%、第3位（15.0%）の『邦画』が同83.2%、第4位（14.6%）の『アジアのTVドラマ』が同92.0%、第5位（11.9%）の『海外のTVドラマ』が同86.2%と軒並み前年同期を割り込んだが、第6位（6.7%）となった『日本の子供向け（アニメーション）』はヒットタイトルもあって前年同期比191.6%と伸長した。

一方数量では、構成比1位（30.2%）を占める『アジアのTVドラマ』が前年同期比107.2%、2位（21.2%）の『洋画』が同107.5%、3位（14.0%）の『海外のTVドラマ』が同107.6%となるなど、レベニューシェアリングシステムの影響で売上金額と売上数量のジャンル別構成や傾向は必ずしも一致せず、合計数量の前年同期比も106.1%と前年同期を上回ることとなった。

以 上